〔様式1〕

令和8年度　北区立小学校学力向上を図るための全体計画

東京都北区立桐ケ丘郷小学校

令和8年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析

国語	「文章を書くこと」に関して、課題がある学年が多い。文章を書く前段階の支援が必要である。文型を示して書く練習も取り入れていき、国語全体に対する興味・関心を高め、読書量を増やしたり言葉の意味調べや短文づくりなどに取り組ませたりすることを通して、語彙力を増やす工夫をしていく必要がある。
社会	学年によって結果が大幅に異なるが、知識をしっかり習得し、その意味を十分理解したうえで、社会的事象と結びつけて、考えられるようにする。特に正確に資料を読み取ることができるように見方を丁寧に指導する必要がある。
算数	「知識・技能」の定着に課題が見られる。一方、活用問題は前年度より上昇していることから、「思考・判断・表現」を重視した授業改善には一定の成果が表れている。今後は、計算練習や既習事項の振り返りを授業の中に計画的に取り入れ、児童一人一人のつまずきを把握した上で、習熟度に応じた指導や個別指導を行う。
理科	「思考・判断・表現」では、課題はあるが考察しようとする姿勢は見られる。一方、全体として「知識・技能」の定着不足がある。知識不足が根拠をもった説明などの表現力にも影響している。今後は観察・実験と知識の結び付け、言語化活動の充実等が必要である。
英語	【基礎】【知識・技能】面においては、全国平均値にほぼ近い成績であるが、【活用】【思考・判断・表現】面において平均と差がついている。今後も、ALTを活用して基礎的な表現力の基盤を固めながら、ALTの例文を聞き活用力を伸ばしたり、児童同士のやり取りの時間を増やして表現力を高めたりしていく。

本校が児童に育成したい力

・興味をもって学習に取り組む力。
・自分の学びやすい学び方を適切に選んで学ぶ力。
・自分の考えをもち、表現できる力。また、その考えを伝え合い、多様性を認め合い、自己の考えを広げたり深めたりする力。

校内における学力向上推進体制

研究推進委員会：学級において支持的風土を養うことで心理的安全性を確保するとともに、各教科・領域の見方、考え方を生かした授業を行うことで、認知能力、非認知能力の双方を育てる。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・日常生活との関連をより強めるとともに、体験的・問題解決的な学習を重視する。 ・個に応じた習熟度別・課題別学習指導を通して、基礎的基本的な内容を確実に身に付けさせる。また、主体的な学習態度を身に付けさせるために、自分自身に合った効果的な学び方を選べるようにするとともに選ぶ基準等を併せて指導する。 ・1・2年生の朝読書を活かし正しく読む力や集中力を、3・4年生のモジュール学習を活かし、語彙を増やしたり正しく読み書き計算する力や集中し、粘り強く取り組む力を高める。 ・語彙をより正しく理解したり、順序立てて分かりやすく説明したりすることができるよう、協働的な学習（話合いや意見交流等）を積極的に取り入れる。	・より主体的かつ意欲的に取り組むことができるよう、教科等横断的な視点をもって合科的な単元展開を計画し、より相手意識を明確にしたり活動をダイナミックにしたりする。 ・基礎基本定着度調査の結果から、各学年の指導の重点を明確にすることで指導内容に軽重をつけ、より効果的かつ効率的に学習内容を定着させるとともに、指導の充実を図る。 ・各教科における言語活動を、より対話的・協働的にする工夫を講じることで充実を図る。	・研究テーマを「「できる」「選べる」「認め合える」指導の工夫 ～デジタルを活用した探究的な学習活動を通して～」とし、社会科の授業研究を通して、教科の見方・考え方を生かした授業づくりができるようにしていく。 ・児童にとって個別最適化を図るための指導の工夫をすること、教科及び授業のねらいを明確化すること、ICTを活用することなどを通して「楽しく探究的な授業」を目指す。	・評価項目と規準を明確にし、児童にも直感的に伝わる形で「めあて」の中に盛り込み、児童と評価基準を共有する。 ・学習の中で、児童自身による自己評価ができる素地を培うとともに、達成感が得られるようにする。 ・友達と考えを交流したり、作品を見合ったりする活動を通して、相互評価の経験を繰り返し、基準や視点を身に付けさせる。	・日常的に学習の様子を発信、情報共有をする。その際、活動のねらいや家庭でフォローしてもらうポイント、評価の規準なども併せて伝える。 ・家庭学習を充実させ、学習習慣の定着を図るために、協力の仕方を具体的に伝えながら、各家庭に協力を依頼する。 ・体験的な学習を充実させるため、地域の人財を活用する。

本校の教育目標

〇思いやりのある子
〇深く考える子
〇たくましい子

学力向上にかかわる経営方針

・基礎・基本を身に付けるために、学力フォローアップ教室や基礎・基本定着度調査をより積極的に活用する。また、習熟度別学習の充実を図る。
・学習習慣と学習意欲を高めることを重視し、日常生活との関連をより強めた授業改善を図ったり、小中の連携をさらに進めたりする。
・低学年における朝読書を定着させるとともに、公立図書館との連携を推進し、読書時間の増加を図る。
・自ら学び、自ら考える教育の推進を図るため、UDL を基調とした授業改善とICT活用を充実させる。
・保護者会での家庭教育啓発をさらに進める。
・児童館等との連携学習等、地域人財を活用した学習を推進する。